

第2章 各教科等における学習評価

9 (2) 中学校 技術・家庭 (技術分野)

題材における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。技術・家庭科技術分野においては、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織して題材を構成し、生徒や学校、地域の実態等に応じて、各項目に配当する授業時数と履修学年について定めることとなっている。そのため、3年間を見通し、履修学年等を踏まえて、「題材の目標」及び、「題材の評価規準」を設定することが重要となる。

その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように指導と評価を進めることが考えられる。ここでは、内容「A 材料と加工の技術」について、

題材名 材料と加工の技術によって、安全な生活の実現を目指そう
～オーダーメイド耐震補強器具を開発しよう～ (第1学年)

を例として、指導する際の題材の検討例を示す。

① 題材の目標を作成する

題材の目標は、学習指導要領に示された分野の目標並びに題材で指導する指導事項を整理・統合した上で、授業時数や履修学年を踏まえて設定する。本題材では、解説のP.25に示された内容「A 材料と加工の技術」のねらいを基に、発達の段階に配慮し視点を広げることを目指したものとしており、問題を見いだす際の範囲を「生活」に限定するとともに、解決策を構想したり、技術の概念を理解したりする際の視点を「安全」に留めている。

材料と加工の技術の見方・考え方を働かせ、より安全な生活を目指した耐震補強器具を開発する実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、材料と加工の技術と安全な生活や社会との関わりについて理解を深めるとともに、生活の中から材料と加工の技術と安全に関わる問題を見いだして課題を設定する力、安全な生活や社会の実現に向けて、適切かつ誠実に材料と加工の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。

※下線部は、解説のP.25に示されたねらいと「題材の目標」の記載が異なる部分を示す。

② 単元 (題材) の評価規準を作成する

「知識・技能」の評価規準の設定の仕方

指導事項アについて、その文末を分野の観点の趣旨に基づき、「～について (を) 理解している」、「～ができる技能を身に付けている。」として作成する。

「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方

指導事項イについて、その文末を分野の観点の趣旨及び学習過程における各項目の位置づけに基づき「～について考えている。」として作成する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方

この観点は粘り強さ (知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面)、自らの学習の調整 (その中で自らの学習を調整しようとする側面) に加え、これらの学びの経験をとおして涵養された、技術を工夫し創造しようとする態度について評価する。

ここでの評価規準は、指導事項ア、イに示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて、文末を「～しようとしている」として作成する。

このことを踏まえて、本題材の「題材の評価規準」を以下のように設定することができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み及び、材料と加工の技術と安全な生活や社会との関わりについて理解しているとともに、製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能を身に付けている。	生活の中から材料と加工の技術と安全に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けているとともに、安全な生活や社会の実現を目指して材料と加工の技術を評価し、適切に選択・管理・運用する力を身に付けている。	安全な生活や社会の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。

＊ 下線部は、「評価の観点の趣旨」と「題材の評価規準」の記載が異なる部分を示す。

③ 指導と評価の計画を作成する

題材の目標の達成には一定程度のまとまった時間の下での指導が必要となる。その中で、適切な時点で適切に評価を行うためには、題材の評価規準を学習活動に即して具体化する必要がある。そして具体化した「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、指導する学年や使用する教材を踏まえ、学習活動ごとに具体化したり、整理・統合したりするなどして、学習活動に即した評価規準を設定する。以下に本題材における整理・統合の例を示す

<p>○「知識・技能」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した課題を解決するために必要となる知識や技能だけでなく、材料と加工の技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えるために必要となるものという視点で具体化する。 <p>○「思考・判断・表現」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年で指導することから、分野目標の「思考・判断・表現」の評価の観点の趣旨における「生活」と「社会」のうち、特に「生活」に着目した問題の発見と課題の設定、技術の評価、選択、管理・運用に係る思考・判断・表現力の育成を目指すこととし、これらに限定して整理・統合する。 <p>○「主体的に学習に取り組む態度」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野目標の「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点の趣旨における、「よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築」について、本題材では「生活」に着目した課題の解決を通して、「社会」へと視点を広げることを目指すこととし、これらに限定して整理・統合する。 ・評価する対象をより明確にするために、例えば、内容Aの(2)における「自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構築しようとしている。」という「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を具体化したものに、「内容の取扱い」に示された「知的財産を創造、保護及び活用しようとする態度」に関する文言を追加して、「自分なりの新しい考え方や捉え方によって知的財産を創造し、他者の新しい考え方や捉え方も知的財産として尊重し、またそれらを保護・活用しようとしている」と具体化するといったことが考えられる。 ・題材の学習過程の適切な場面で評価するために、例えば、内容Aの(1)における「進んで材料と加工の技術の関わり、主体的に理解しようとしている。」という「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を具体化したものに、(2)に関係する「技能」を加え、「進んで材料と加工の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。」とすることで、複数の学習活動に共通するよう整理・統合することも考えられる。

次の表は、内容「A 材料と加工の技術」の(2)材料と加工の技術による問題の解決における「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、解説のp.29 やp.60 の記述を参考に具体化したものである。

内容のまとめ()ことの 評価規準 例	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができる技能を身に付けている。	問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「内容のまとめ()ことの評価規準(例)」を具体化した例	<ul style="list-style-type: none"> 適切な図法を用いて、製作に必要な図をかきことができる技能を身に付けている。 工具や機器を使用して、安全・適切に材料取り、部品加工、組立て・接合、仕上げや、検査等ができる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中から材料の製造や成形などに関わる問題を見いだして課題を設定する力を身に付けている。 試作等を通じて解決策を具体化する力を身に付けている。 設計に基づく合理的な解決作業について考える力を身に付けている。 課題の解決結果や解決課程を評価、改善及び修正する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。

④ 評価を行う場面や頻度の検討

目標に照らしておおむね満足できる状況となっていない生徒に対して適切に指導するためには、授業ごとに評価を行う必要がある。しかし、一つ一つの授業が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の全てを目標としているわけではない。また、実現するために何時間かの指導が必要な目標もある。そのため、記録に残す「観点別学習状況」の評価については、毎回の授業で「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の全ての観点について行うのではなく、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行うこととなる。

⑤ 評価方法の検討

「知識・技能」の観点の知識についての評価方法としては、ペーパーテストの記入内容から、必要な事項を指摘できるかを確認する方法が考えられる。また、調べ学習レポートや提言レポートから、技術と社会や環境との関わりや技術の概念について説明できるかを確認するといった方法も考えられる。技能については、最終的に完成した製作品から、製作品を作る技能だけを評価するのではなく、安全・適切に作業できているかを観察などから多面的に評価するといった工夫が必要である。

「思考・判断・表現」の観点の評価方法としては、「生活や社会を支える技術」の場面では、技術に込められた工夫を読み取りや技術の見方・考え方の気付きについて、調べ学習レポートなどから評価する方法が考えられる。「技術による問題の解決」の場面では、問題の発見、課題の設定、設計・計画、製作・制作・育成、成果の評価の各過程での思考力、判断力、表現力等の実現状況について、問題発見シート、設計レポート、作業計画表、作業記録カード、完成レポートなどの記入内容から評価することが考えられ

る。「社会の発展と技術」の場面では、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けてどのような技術を開発すべきかについて提言レポートやプレゼンテーションを作成させ、その内容から評価することが考えられる。

「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価方法としては、観察以外に、振り返りカードをはじめ、設計レポート、作業記録カード、完成レポート、提言レポートなども適切に使用することが考えられる。

⑥ 題材の評価規準の具体化、整理・統合

題材の評価規準を学習活動に即して具体化、整理・統合する考え方を、内容「A 材料と加工の技術」について各観点一つずつその例を示す。

単元の評価規準	評価規準	ポイント
〔知識・技能〕	安全・適切に材料取り、部品加工、組立て・接合、仕上げと検査・点検、必要に応じた改善・修正ができる。	・材料取り、部品加工、組立て・接合、仕上げ・塗装の各工程を安全・適切に行うことや、各工程を検査・点検して必要に応じた改善・修正ができることを示している。これは、各工程における結果の精緻さのみを評価の資料とするのではなく、問題解決の過程で知識を伴う技能がどのように発揮されたのかについて、材料取り、部品加工、組立て・接合、仕上げ・塗装の各工程において継続的に評価する。
〔思考・判断・表現〕	安全な生活や社会の実現を目指して、材料と加工の技術を評価し、適切な選択、管理・運用の仕方について提言できる。	・技術の活用についても学習する学年に配慮し、「改良」や「応用」までは求めず「選択」や「管理・運用」に留める。
〔主体的に学習に取り組む態度〕	自分なりの新しい考え方や捉え方によって知的財産を創造し、他者の新しい考え方や捉え方も知的財産として尊重し、またそれらを保護・活用しようとしている。	・内容Aの(2)における「自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。」という「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を具体化したものに、「内容の取扱い」に示された「知的財産を創造、保護及び活用しようとする態度」に関する文言を追加して、「自分なりの新しい考え方や捉え方によって知的財産を創造し、他者の新しい考え方や捉え方も知的財産として尊重し、またそれらを保護・活用しようとしている」と具体化する。

⑤ 観点ごとに評価を総括する

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点ごとに示される観点別学習状況の評価は、技術分野の目標に照らした学習の実現状況を分析的に評価するものであり、学習の改善を促す資料となる。例えば、評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括する場合は、評価結果の数値によって表し、合計や平均することで総括する。総括の結果をBとする判断の基準を $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ とすると、例えば「A:2、B:3、C:1」であればB、「A:4、B:2、C:0」であればA、「A:1、B:3、C:0」であればBとなる。

このほかにも、観点別学習状況の評価に係る記録の総括については様々な考え方や方法があるため、各学校において工夫することが望まれる。

<参考資料>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校) (国立教育政策研究所)

第2章 各教科等における学習評価

9 (2) 中学校 技術・家庭 (家庭分野)

技術・家庭科家庭分野においては、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織した題材を構成し、分野の目標の実現を目指している。題材の設定に当たっては、各項目及び各項目に示す指導事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り、系統的及び総合的に学習が展開されるよう配慮する必要があるとともに、各項目に配当する授業時数と履修学年については、児童や学校、地域の実態等に応じて定めることとしている。そのため、実際の指導に当たっては、履修学年を踏まえて、「題材の目標」及び「題材の評価規準」を作成した上で、「題材の評価規準」を学習活動に即して具体化することが必要となる。

ここでは、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた、「題材の目標」及び「題材の評価規準」の作成の仕方等について、以下の題材を例として示す。

題材「健康・快適で持続可能な衣生活 (第2学年)」

① 題材の目標を作成する

学習指導要領に示された分野の目標並びに題材で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定する。

なお、本題材は、B (4) のア(ア)、イ及びイ、(5) のア及びイの指導事項の関連を図って設定している。

- (1) 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用、個性を生かす着用、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用の必要性、日常着の手入れ及び、製作するものに適した材料や縫い方、用具の安全な取扱いについて理解するとともに、それに係る技能を身に付ける。
- (2) 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

② 題材の評価規準を作成する

題材の評価規準は、「内容のまとめりごとの評価規準 (例)」から題材において指導する項目及び指導事項に関係する部分を抜き出し、評価の観点ごとに具体化、整合・統合するなどして作成する。「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際には、以下の【観点ごとのポイント】を踏まえる。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

「知識・技能」のポイント・・・基本的には、当該指導項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項アについて、その文末を、「～について理解している」、「～について理解しているとともに、適切にできる」として示す。ただし、A (1) については「～に気付いている」とする。

「思考・判断・表現」のポイント・・・基本的には、当該指導事項で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項イについて、その文末を、「～について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている」として示す。

「主体的に学習に取り組む態度」のポイント・・・基本的には、当該指導項目で扱う指導事項ア及びイと分野の目標、分野の評価の観点の趣旨を踏まえて作成する。その際、対象とする指導項目の名称を用いて示す。具体的には、①粘り強さ (知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面)、②自らの学習の調整 (その中で自ら

の学習を調整しようとする側面)に加え、③実践しようとする態度を含めることを基本とし、その文末を、「～について、課題の解決に主体的に取り組んだり (①)、振り返って改善したり (②) して、生活を工夫し、実践しようとしている (③)」として示す。

以下は、本題材で指導する項目及び指導事項についての「内容のまとまりごとの評価規準」から「題材の指導基準」を作成した例である。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準例	B (4) ア(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。	B (4) イ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり (①)、振り返って改善したり (②) して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている (③)。
	B (4) ア(イ) 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料の状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。	B (5) イ <u>資源や環境に配慮し</u> 、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活に実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり (①)、振り返って改善したり (②) して、生活を工夫し創造し、実践しようとしている (③)。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 ・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。 ・製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするための布を用いた物の製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

※下線部は「内容のまとまりごとの評価規準 (例)」と「題材の評価規準」の記載が異なる部分を示す。

③ 指導と評価の計画を作成する

授業において評価を行う際には、学習指導要領技術・家庭 家庭分野における各内容の指導事項が3学年をまとめて示されていることから、「題材の評価規準」を学習活動に即して具体化する必要がある。

そこで、「題材の評価規準」を、その基となっている「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を踏まえた上で、以下のポイントに留意して具体化し、学習活動に即して、具体的な単位時間ごとの評価規準を設定する。

<p>「知識・技能」のポイント・・・「内容のまとまりごとの評価規準（例）」の作成において述べたように示す。</p> <p>「思考・判断・表現」のポイント・・・基本的には、各題材において、次に示す四つの評価規準を設定し、評価することが考えられる。具体的には、①家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する力については、その文末を、「～について問題を見いだして課題を設定している」、②解決の見通しをもって計画を立てる際、生活について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案する力については、その文末を「～について（実践に向けた計画を）考え、工夫している」、③課題の解決に向けて実践した結果を評価・改善する力については、その文末を「～について、実践を評価したり、改善したりしている」、④計画や実践について評価・改善する際に、考察したことを論理的に表現する力については、その文末を「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明したり、発表したりしている」として示すことができる。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」のポイント・・・基本的には、各題材の学習過程において三つの側面から評価規準を設定し、評価することが考えられる。具体的には、①粘り強さについては、その文末を「～について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている」、②自らの学習の調整については、その文末を「～について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている」、③実践しようとする態度については、その文末を「～について工夫し創造し、実践しようとしている」として示すことができる。</p>

以下は、本題材の評価規準を学習活動に即して具体化した例である。

	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣服の一生	<p>○小学校での学習や、今までの経験から、衣服に関する問題点を見付け、課題を設定する。</p> <p>○制服はどのような手入れをしているか、どんな手入れ方法があるかを考える。</p>		<p>題材全体を貫く課題</p> <p>・健康・快適で持続可能な衣生活を送るために、衣服の選択、手入れ、再利用などについて、問題を見いだして課題を設定している。</p>	<p><評価方法></p> <p>・学習カード</p>
健康・快適で持続可能な衣生活を送るためには、どのようなことが大切なのだろう。				
衣服の選択と着用	<p>○様々な行事や活動の際、どのように衣服を選べばよいかを考え、話し合う。</p> <p>○組成表示や取扱い絵表示等、衣服の表示について調べる。</p> <p>○目的、デザイン、サイズ等を考慮しながら衣服を選択する。</p>	<p>・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用について理解している。</p> <p><評価方法></p> <p>・学習カード</p> <p>・ペーパーテスト</p> <p>・衣服の適切な選択について理解している。</p> <p><評価方法></p> <p>・学習カード</p>	<p>（課題1）</p> <p>・衣服の選択について、問題を見いだして課題を設定している。</p> <p>・衣服の選択について考え、工夫している。</p> <p>・衣服の選択についての結果を評価したり、改善したりしている。</p> <p><評価方法></p> <p>・学習カード</p>	<p>・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。...③</p> <p><評価方法></p> <p>・ポートフォリオ（学習のあしあと）</p> <p>・学習カード</p> <p>・行動観察</p>

衣服を長く大切に	4	○自分の日常着の洗濯について課題を設定する。	・衣服の材料や状態に応じた日常着の洗濯の仕方について理解しているとともに、適切にできる。	(課題2) ・材料や状態に応じた日常着の洗濯の仕方について、問題を見いだして課題を設定している。	・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
	5	○同様の課題を設定したグループで解決方法を調べたり実験したりする。	<評価方法> ・行動観察 ・相互評価	・材料や状態に応じた日常着の洗濯の仕方について考え、工夫している。...②	<評価方法> ・ポートフォリオ ・学習カード ・行動観察
	5	○学んだことを生かして自分の衣服の洗濯の方法を考える。	<評価方法> ・学習カード	・材料や状態に応じた日常着の洗濯の仕方について、実践を評価したり改善したりしている。	
	5	○材料や汚れ方に応じた洗濯の仕方について考えを発表し合う。	<評価方法> ・ペーパーテスト	・自分の考えた洗濯の仕方について、根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明したり発表したりしている。	・よりよい衣生活の実現に向けて、衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方について、工夫し創造し、実践しようとしている。
	6	○これまで学んだ縫い方とまつり縫いを比べ、特徴をまとめる。	・衣服の材料や状態に応じた日常着の補修の仕方について理解しているとともに、適切にできる。...①	※指導に生かす評価 <評価方法> ・練習布 ・相互評価	
	7	○補修の目的と布地に適した方法を考え、実習する。		※記録に残す評価 <評価方法> ・ポートフォリオ	
	8	○手持ちの衣服を点検し、購入から廃棄までを見通した計画的な活用について話し合う。	・衣服の計画的な活用の必要性について理解している。	(課題3) ・自分の衣服の再利用について、問題を見いだして課題を設定している。	・衣服の再利用の製作計画や製作について、課題解決に主体的に取り組もうとしている。
	8	○衣服の再利用の製作計画の条件を確認し、課題を設定する。	<評価方法> ・学習カード	<評価方法> ・製作計画・実践記録表	<評価方法> ・ポートフォリオ
生活を豊かにする物の製作	9	○再利用する衣服の素材や特徴を生かして、自分の生活を豊かにする作品の製作計画を立てる。	・製作する物に適した材料や縫い方について理解しているとともに、製作が適切にできる。	・衣服の再利用の製作計画について考え、工夫している。	・衣服の再利用の製作計画や製作について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
	10	○製作計画に沿って製作する。	・用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。	・衣服の再利用の製作について、実践を評価したり、改善したりしている。	
	11	○作品について、自己評価する。	<評価方法> ・行動観察	<評価方法> ・製作計画・実践記録表 ・再利用作品	<評価方法> ・ポートフォリオ ・製作計画・実践記録表

健康・快適で持続可能な衣生活	14	○友達の作品を見て、よいところを相互評価し、参考になるところをワークシートにまとめる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 題材全体を貫く課題 </div> <ul style="list-style-type: none"> 健康・快適で持続可能な衣生活を送るために、<u>考察したことを根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明したり、発表したりしている。</u> 	・よりよい衣生活の実現に受けて、衣服の再利用の製作計画や製作について、 <u>工夫し創造し、実践しようとしている。</u>
		○これまでの学習から、健康・快適で持続可能な衣生活を送るために大切な音をまとめる。		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <評価方法> ・学習カード </div>

※題材の中で2回の補修に関わる実習を位置付け、1回目は「指導に生かす評価」として、[努力を要する]状況と判断される児童への手立てを考え、2回目を「記録に残す評価」とする。

④ 実際の指導及び評価

評価は、家庭分野の目標の実現を目指し、題材の評価計画に基づいて場面や方法を工夫しながら進める。各学習活動における評価規準については、「Bと判断する状況の例」及び「Cと判断する児童への手立て」を想定する必要がある。

ここでは、本題材の評価規準について、各観点一つずつその例を示す。

評価規準	評価方法	Bと判断する状況の例	Cと判断する状況への手立て
6・7時間目 〔知識・技能〕 (上表の①)	・練習布 ・相互評価	・評価見本を用いて、表面・裏面ともに評価見本と同じように縫えている。	・再度縫い方の説明をしたり動画を見せたりして、縫い方を確認する。等
4・5時間目 〔思考・判断・表現〕 (上表の②)	・学習カード	・日常着の洗濯の仕方について、実験したり交流したりする場面で、自分の解決方法を考え、工夫することができている。	・汚れの種類や組成表示、取扱い絵表示、洗剤の種類等を再確認し、それらに応じた洗濯の仕方について具体的に方法を考える。等
3・4時間目 〔主体的に学習に取り組む態度〕 (上表③)	・ポートフォリオ ・学習カード ・行動観察	・遊園地に行くときにふさわしい服装を選択するために、時・場所・場合に応じて自分なりに解決しようとしている。	・遊園地という場所、季節、同行する人などを確認したり、友達の話を参考にしたりするよう促す。等

※こうした状況を見取るためには、学習カードや製作計画・実践記録表、ポートフォリオなどへの記述内容や記述の仕方、学習形態を工夫する必要がある。例えば、本題材の〔思考・判断・表現〕の評価であれば、再利用する衣服の素材や特徴を生かして生活を豊かにする物の製作計画を立てるときに、なぜそうするのかという理由が記述できたり、製作を振り返って改善策を考えるとときに思考の足跡を残すことができたりするような学習カードを工夫することが考えられる。

⑤ 観点ごとに評価を総括する

観点別評価の総括は、例えば次のように行うことができる。

「観点ごとの総括」については、題材の「学習活動の即した評価規準」に基づいて、行動観察や学習活動内容、調理計画・実習記録表、確認テスト、ペーパーテストなどにより、A、B、Cで観点別の評価を行ったものを、3、2、1で数値化し、各観点の合計点を出す。満点の85%以上であればA、84～50%であればB、それ未満であればCとする考え方に立って総括する。

「題材の総括」については、「観点ごとの総括」のA、B、Cを3、2、1で数値化し、3観点の合計点について、満点の85%以上であればA、84～50%であればB、それ未満であればCとする考え方に立って総括する。

この他にも、題材における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

<参考資料>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校) (国立教育政策研究所)